

## メディア・SNSでの発信等

### 情報発信の取り組み

本市は、RWC2019へ向けて、早くからウェールズとの交流事業を推進するとともに、様々な情報発信を行ってきた。

#### 報道機関への発信

報道機関には、2016年11月に事前キャンプの誘致が決定した頃から、全ての取組みについて情報提供を行った。2019年3月と8月には、北九州市、福岡市の各メディアを回り、取組みをPRして回った。

WRUも協力的だった。往年の代表選手や現役監督まで、様々な方からのメッセージビデオを送ってくれた。また、ラグビーウェールズ交流プログラムの第2回目(2019年3月)、第3回目(9月)における報道機関との意見交換会では、元ウェールズ代表のリース・ウィリアムズ氏、ライアン・ジョーンズ氏、ヒュー・ベネット氏らが、ウェールズラグビーの魅力や北九州市民との交流について熱心にアピールした。2019年3月には、東京でも、ウェールズ政府主催のプレスカンファレンスが開かれ、本市で第2回ラグビーウェールズ交流プログラムを終えたばかりのウィリアムズ氏、ベネット氏らが市民との交流をPRした。

#### SNSでの発信

Twitter(「@kitaqcamp1」)やFacebook(「Kitaqcamp」)を中心にSNSでも積極的に発信した。より訴求力を高めるため、動画での発信も重視し、Twitterに加えYouTubeでも公開した。国外、特にウェールズの

方々にも届くよう、英語での発信にも努めた。

またWRUや海外メディアによる英語でのツイートについても、適宜引用・和訳して紹介した。これは、市民にとって、本市が国内外から注目されていることを知る良い機会となり、シティ・プロモーションやシビックプライドの醸成に大いに寄与した。



#### 取組みの結果

WRUのプレ交流、3回のラグビーウェールズ交流プログラム、代表チームのキャンプ実施など取組みを重ねるごとに報道やWeb、SNSでの取扱いが増えていった。RWC2019直前の2019年8月下旬からは、連日のようにテレビや新聞、Webで報じられた。

特に、満員のスタジアムでの公開練習をはじめ市民の温かいおもてなしが大きな注目を集め、その様子は日本国内やウェールズだけでなく、欧米の海外メディアで連日のように報道され、SNSでも世界に発信された。

### 感謝の広告交換

ウェールズ代表のRWC2019最終戦(ニュージーランドとの3位決定戦)の翌日となる11月2日、WRUが北九州市民に感謝の思いを伝える全面広告を毎日新聞朝刊に掲載した。チームカラーの赤に染められた広告には、スタジアムで応援する市民の写真も掲載され、「北九州は私たちウェールズ国民にとって、特別な場所になりました。」などと書かれている。

WRUへの返礼の意味を込め、本市も11月7日付のウェールズの地元紙「Western Mail」朝刊に、感謝の言葉を綴った全面広告を掲載した。

広告は、応援する市民の写真をコラージュした「日の丸」に、日本語で大きく「ありがとう」と記し、その下に英語とウェールズ語で「私たちの街を、あなた方のホームとして選んでくれてありがとう」と添えた。

このWRUと本市のエール交換は、国内外で大きく報じられて反響を呼び、幅広い人々が、「北九州市民であ

ることを誇りに思う」などと喜び、シビックプライドが高まった。



ウェールズラグビー協会からの感謝の新聞広告



本市がウェールズの現地新聞に掲載した全面広告

### パブリシティ効果

RWC2019直前の2019年8月下旬からは、連日のようにテレビや新聞、Webで報じられた。

このパブリシティ効果について、日本国内のテレビ、新聞・雑誌、Webを対象に調査したところ、件数は700を超え、効果額は約23億4千万円となった(なお、今回の調査結果には含まれていないが、海外での報道や国内外のSNSでも数多く取り上げられた)。

これらの報道等により、本市のシティ・プロモーションの推進やシビック・プライドの醸成に大きく寄与した。

#### 主な報道内容

都市装飾(ウェールズ色に染まる街、小倉城ライトアップ)、ラグビーウェールズ交流プログラム(ラグビー教室、学校訪問)、代表チームが到着、ウェールズの歌でおもてなし、スタジアムが満員となった公開練習、RWC期間中の市民の応援、新聞広告でのエール交換など。

メディア別内訳		
①	テレビ	1,704百万円(87件) 2019.8/20~2019.12/26
②	新聞・雑誌	54百万円(62件) 2019.8/21~2020.1/1
③	WEB	579百万円(574件) 2019.8/2~2020.1/1
合計		2,837百万円(723件)

※ニホンモニター調査

### 経済波及効果

代表チームのキャンプ、公開練習、第3回交流プログラム等について、経済波及効果を本市推計の上算出したところ、約2億6千万円となった。

内訳		
①	【キャンプ実施関連】代表チームの宿泊、交通、施設整備、チームウェルカムセレモニー、メディア関係者に係る経費など	73百万円
②	【機運醸成関連】都市装飾、各種印刷物及び応援グッズ、ノベルティ制作など	43百万円
③	【イベント関連】公開練習、パブリックビューイング、ラグビーウェールズ交流プログラムなど	148百万円
合計		264百万円

※北九州市調べ

## ウェールズキャンプのレガシー

### ◁ KitaQ フェス in Tokyo

RWC開幕後間もない2019年11月9日、10日に東京で開催された、北九州市の魅力を発信するイベント「KitaQ フェス in Tokyo」に、ウェールズ代表による本市でのキャンプ実施を紹介するブースを出展した。赤を基調としたデザインのブースで、多くの来場者が足を止めて見入っていた。

また、本イベントのオープニングセレモニーに、ウェールズ政府日本代表事務所のロビン・ウォーカー代表が出席し、「北九州市との交流を進展させたい。」とあいさつした。



### ◁ ウェールズ訪問・レガシー協定の締結

2020年2月20日から24日の3泊5日の日程で、「ラグビーワールドカップ2019のレガシーの一環としてウェールズラグビー協会と北九州市との間で発展する両者の友好・協力関係に関する覚書」(通称「WRUとのレガシー協定」)締結等のため、鈴木清副市長(北橋市長の代理)、村上幸一市議会議長ら5名がウェールズを訪問した。

WRUから、RWC2019のレガシーとして交流を進めたいとのことで招待状が本市に届き、今回の訪問が実現した。

#### レガシー協定の締結

レガシー協定は、RWC2019の開催前・開催期間中に本市とWRUとの間で培われた友好・協力関係を持続、発展させることを目的とするものであり、日本の自治体として初めてWRUと締結した。

締結式は、2月22日、事前キャンプ実施の覚書を締結したときと同じプリンシパリティスタジアムのグラウンド上で行われた。鈴木副市長とWRUチェアマンのギャレス・デービス氏(2019年3月の第2回ラグビーウェールズ交流プログラムで来北)が署名した。チェア

マンから、RWC2019での本市の歓迎に改めて謝意が伝えられるとともに、今後の交流促進への期待が寄せられた。

締結式の後、同じスタジアムでシックスネーションズ(ウェールズ対フランス)が開催された。このときも、満員のスタジアムにウェールズ国歌の大合唱が鳴り響いた。



また、WRU関係者との協議の中で、今後の具体的な交流として、ウェールズ代表が来日する6月下旬に、元代表選手等が本市を訪問し、市民と交流する方向で一致した。

※ウェールズ代表チームと日本代表とのテストマッチ(6月27日、静岡県で開催)に合わせWRUの元代表選手等が本市を訪れて交流する計画であった。しかし、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響で、テストマッチ、交流とも中止となった。

#### ウェールズ政府等との協議

今回の訪問に合わせ、2月21日、ウェールズ政府、首都のカーディフ市、文化団体等の関係者との協議も行った。

ウェールズ政府では、2019年9月に本市を訪れたマーク・ドレイクフォード首席大臣と会談し、スポーツのみならず、文化、経済、青少年交流など、様々な分野における両地域の交流促進について協議した。\*



※カーディフ市の市議会議員兼市投資開発局長のラッセル・グッドウェイ氏とも面会し、石炭や製鉄業を背景とした両地域の歩みや産業の共通点などを踏まえた今後の両市の交流について意見交換を行った。



また、ウェールズ最大の青少年団体である「イールド」CEOのサイアン・ルイス氏やウェールズの文化機関「ウェールズ・アーツ・インターナショナル」代表のエルネド・ハフ氏らと再会した。6月の代表チーム来日に合わせた交流等について協議した。

※これも新型コロナウイルスの影響で中止となった。



### ◁ 教材用冊子で紹介

2020年2月、教科書関係出版社がRWC2019で注目されたエピソードを教材用冊子としてまとめた。その中で本市とウェールズとの交流が「ラグビーを通じ深まったウェールズとの絆 北九州市も感謝の気持ちを現地新聞に」のタイトルで紹介された。この冊子は、本市を含め、全国の小中学校や教育委員会に配付された。

